花山だより（六月）

「星見山人」氏の後をうけて筆者が天文臺風景を御傳へする事になつたが，相憎の梅雨空で，天界を覗ふよすがも無い．先づ地上の打診から初めやう．

山本臺長は忙中に寸暇を得て，彦根の圖書館に赴き，鄉土の偉大なる先輩平石時光の遺物を研究せられ，現存する資料丈に就ても優に本年中はかゝるとの御話し，地下の時光聖代に知遇を得て以て瞑すべし．

柴田・高城兩氏は市岡中學の講演會に招かれ大いに日頃の蘊蓄を傾倒せられた由．近年天文臺見學者の數が加速度的に增加するので，當方でも事務の都合其他の事情もあり，此際申し込み一切は大學本部庶務課の方で取扱つて貰ふ事にし，臺員は出來得る限り便宜を計り度い意味から，交代して案內役を勤める事になつた．此點特に御注意願ひ度い．

現在大阪にプラネタリユーム建設の問題もある矢先，丁度最近其の方面を特に研究せられて歸朝した渡邊博士を招請するの機を得て一場の講話を承はつた由，筆者相憎不在で拜聽の期を逸した．

每年6月18日は大學の記念日で，天文臺でも公開の爲め臺員一同其の準備に忙殺される筈であるが，本年は祝賀會のみで其他の催は中止され一入物淋しい．之に引續いて愈々本格的の梅雨で，白銀のドームも閉つた儘で，臺員一同も頗る元氣が無い．

28日朝來の豪雨は幸ひ山では格別被害も無かつたが，市內は文字通り慘憺たる有樣で，只々自然の猛威の前には拱手傍觀の體．鴨川の濁流に押流される家．悠々然と投網を投げる番頭氏．圍繞する群集．之も時ならぬ街の風景．筆者も千草の根に古への詩情を偲ぶ程の感情家でも無い．27日夕刻上島講師の御母堂が突然病死せらる．假の命のかくも脆く人の世の無情に一同暗然として御慰めの言葉も無い．唯々故人の御冥福と遺族の御安康を祈るのみ．

暴風警戒！　當分雨か．（月斗生）